

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目次

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 1. 新設組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2 |
| 2. 人材需要の社会的な動向等・・・・・・・・・・    | 2 |
| 3. 学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・  | 3 |
| 4. 新設組織の定員設定の理由・・・・・・・・・・    | 4 |

## 1. 新設組織の概要

### (1) 新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

| 新設組織                                                                                               | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 所在地<br>(教育研究を行う<br>キャンパス)                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 滋賀医科大学・マレーシア国民大学国際連携エイジングサイエンス専攻<br>(SUMS-UKM International Joint Ph.D. Program in Ageing Science) | 2    | 0     | 8    | 滋賀県大津市瀬田月輪町<br>Jalan Yaacob Latif, Bandar Tun Razak 56000 Cheras, Kuala Lumpur Malaysia |

### (2) 新設組織の特色

本専攻では、養成する人材像として「エイジングサイエンスの研究者として必要な専門的知識と研究技術を有するとともに、確固たる倫理観を身につけた国際的なリーダー」を掲げて、高齢化に伴う医学的な問題に対応できる研究者の養成を目指す。

本専攻は、滋賀医科大学大学院医学系研究科医学専攻博士課程を母体とするものである。母体の専攻は入学定員 30 名（編入学定員無し）、収容定員 120 名、所在地は滋賀県大津市瀬田月輪町であるが、本専攻の定員は、この定員を減じて設定する。

## 2. 人材需要の社会的な動向等

### (1) 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

我が国の高齢化率は 2015 年は 26.7%で、2060 年には 39.9%と 65 歳以上人口が約 2.5 人に 1 人となる見通し（平成 28 年度厚生労働白書）である。一方、連携外国大学が所在するマレーシアは 2020 年には 7.2%、2040 年には 14.5%に達すると推計（マレーシア統計局）され、今後の高齢化を踏まえた社会保障制度の整備が求められている。

高齢化は、認知症、がん、生活習慣病等の幅広い領域の疾患を引き起こすこと、さらには、高齢化やそれに伴う疾患は医療行政上の課題でもあることから、本専攻の修了後の進路としては、これらの疾患を研究する大学医学部・研究センターの教員・研究員、また、これらの疾患の予防や治療法の開発に関わっている製薬、医療機器、食品等の企業における研究職や研究リーダー、医学を専門とする行政官（医系技官等）が想定される。

また、高齢化は両国だけの課題でもないことから、本専攻が養成しようする人材の需要はあるものと想定される。

なお、修了後の進路の想定に関して、後述「(2) 学生確保に関するアンケート調査」における定員充足の見込みについてのアンケート調査の際に、就職に関する確認も行っている。その中で「4. 将来希望する就職先」として、大学、国内公的研究機関、国内医療関連企業、海外医療関連研究機関、国際的な組織、NGO等が挙げられている。一方、マレーシア国民大学の調査では「5. 本プログラムを修了した学生への期待」の「学生に適した職種」として、健康科学、医療関連産業、教育、研究者等が挙げられていることから、本専攻の修了後の進路として想定した就職先が見込まれる。

## （２）新設組織の主な学生募集地域

本専攻は、滋賀医科大学大学院医学系研究科医学専攻博士課程とマレーシア国民大学医学部が協定して設置する国際連携専攻である。

両大学は、2011 年（平成 23 年）に学術交流協定を締結した。マレーシア国民大学から本学大学院医学系研究科医学専攻への入学者数は、過去 10 年（平成 26～令和 5 年度）で 14 名、平均して毎年度 1 名程度が入学している。

本専攻は、滋賀医科大学及びマレーシア国民大学の協定により設置することから、マレーシア国民大学からの本学医学専攻博士課程への入学者数を踏まえ、原則各大学 1 名ずつ、入学定員 2 名で選抜することとした。

学生募集活動も、各大学において行うこととしている。

両大学の入学者の均衡に関しては、実際は入学者選抜試験の結果によるが、入学定員は 2 名であることから、仮に一方の大学からの入学者だけになったとしても支障を来さないが、入学状況を確認しつつ中長期的に均衡を図っていくように努める。

## 3. 学生確保の見通し

### （１）学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

母体の医学専攻での学生確保に向けた取組としては、ホームページへの学生募集要項の掲載や関係者への周知を行っており、定員 30 名に対する入学者は、過去 10 年（平成 26～令和 5 年度）平均で 36 名、同 5 年（令和元～5 年度）で 34 名となっている。

本専攻の学生確保に向けた取組としては、取得できる学位、修了要件、カリキュラム等、本専攻に関する基本的な情報を、各大学のホームページに掲載するとともにポスターや説明会等で周知する。

また、各大学における奨学金等の学生支援についても、各大学ホームページにて情報提供を行う。

本専攻の入学者は、母体の医学専攻において入学者が確保できており、これまでのマレーシア国民大学からの入学者の推移から、確保できるものと見込んでいる。

### （２）学生確保に関するアンケート調査

定員充足の見込みについてのアンケート調査を実施（日本人 25 名、留学生 37 名、計 62 名が回答）した。（資料 1）

回答の偏向を防ぐため、マレーシア国民大学に依頼して、同大学の視点によるアンケートを実施してもらい、その結果（関係者 62 名が回答）を得た。（資料 2）

#### 1) 滋賀医科大学のアンケート結果

アンケート結果を見ると、本専攻に対して、「設置に賛成」が 71%で、「設置に反対」の回答は無かった。

エイジングサイエンスを目的としたことに対しては、「興味がある」が 45%、「少し興味がある」が 28%で、あわせて 73%が興味を示している。

受験に関しては、「ぜひ出願したい」が 31%、「出願を検討したい」が 37%で、あわせると 68%が出願に前向きな回答をしている。

本専攻の修了に関しては、その後のキャリア形成の「メリットになる」が46%、「おそらくメリットになる」が46%で、あわせると92%がキャリア形成にメリットがあると捉えている。

大学院進学を考えている医学生に本プログラムを勧めるかに関しては、「勧める」が31%、「どちらかと言えば勧める」が48%で、あわせると79%が本専攻を勧めると回答している。

本学のアンケートからは、本専攻に対して有用性を認める回答となっており、また、出願への前向きな回答や、本専攻を勧めるといった回答が得られていることから、学生確保は可能であると判断した。

## 2) マレーシア国民大学のアンケート結果

本専攻の設置に関して、マレーシア国民大学の視点でアンケートが実施されたが、その結果を見ると、プログラム、教育・指導内容及びスケジュールの妥当性に関して、多様な観点で確認されているが、各結果とも妥当性を認める回答で、同大学の展望や使命等に対しても「満たす」との回答が見受けられる。

修了者に適した勤務職種も多く挙げられており、修了者への期待もうかがえる。また、本プログラムを勧めるかに関しては、98%が「勧める」との回答となっている。

マレーシア国民大学によるアンケート結果においても、本専攻に対して有用性を認める回答結果が得られており、学生確保に関する設問でも前向きな回答であることから、本専攻の学生確保は可能であると判断した。

## (3) 競合校の状況分析

博士（医学）の授与又は医学専攻を母体とする国際連携専攻としては、名古屋大学、京都大学及び東京医科歯科大学（現、東京科学大学）があるが、それぞれ本学の連携外国大学であるマレーシア国民大学とは異なる大学との国際連携専攻である。また、このうち近隣は京都大学であるが、国際連携専攻において授与する学位は、「博士（ゲノム医学）」であることから、競合する大学は無いと判断した。

本専攻における学生納付金の金額設定に関して、検定料、入学料、授業料は、入学手続き大学のみが徴収することとしており、本学の各料金は、母体の医学専攻と同額とする。

## (4) 先行事例分析

前述「(3) 競合校の状況分析」のとおり、他の国立大学において博士（医学）の授与又は医学専攻を母体とする国際連携専攻があるが、それぞれ連携外国大学も異なることから、先行事例として該当しないものと考えている。

## 4. 新設組織の定員設定の理由

「2. 人材需要の社会的な動向等」の「(2) 新設組織の主な学生募集地域」の箇所で記述したとおり、これまでのマレーシア国民大学からの本学医学専攻への留学生数の実績を踏まえて設定したものである。